

26年5月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成26年 4月20日～ 26年5月10日

2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
5月分の回答企業数は7社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) ラミナ荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/5月	6月	7月
入荷動向	国産材	△ 14.3	0.0	△ 7.1
	外材	8.3	△ 8.3	△ 8.3
在庫動向	国産材	28.6	7.1	△ 7.1
	外材	0.0	0.0	△ 10.0

国産材ラミナの入荷は5月の減少が6月の横ばいを経て7月にはやや減少に、外材は5月の増加が6、7月にはやや減少に。
国産材ラミナの在庫は5、6月の増加が7月にはやや減少に、外材は5、6月の横ばいが7月には減少に。

(2) ラミナ購入価格動向 Weight. D. I.

品目	26/5月	6月	7月
国産材	△ 14.3	△ 7.1	△ 14.3
欧州材	0.0	△ 10.0	△ 10.0
その他	-	-	-

国産材ラミナの価格は弱保合で推移、欧州材は5月の保合が6、7月にはやや弱保合に。

モニターからのコメント

(ラミナ荷動き) ・カラマツラミナは5月も4月と同量の入荷を見込む、6月以降は森林整備事業、梅雨期などで出材減と見込む。在庫は変わらずと見込む。
・外材は在庫調整をするため購入量を減らしている。国産材がまったく集まらない状態、在庫なし。
・バイオマスとパレット材の原料は買い手市場だが構造材、特に国産材は単価変動激しく荷動きは今ひとつ鈍い。急激に需要が低下したためラミナ原料在庫は一時的に増加、外材は市況回復と共に改善されると予想。

(ラミナ価格動向) ・カラマツラミナ価格は、丸太不足を背景に5月以降も強含みと見込む。
・国産材が思っていたように値下がりしていかない。欧州材は若干下がっている。
・国産材原木価格は値下がり傾向にあるが依然、ラミナ価格はバイオマス、パレット材の製品高の影響で横ばい続き、パレット材需給バランスが落ち着いたところで下落の可能性大と予想。

26年5月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

(3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/5月	6月	7月
生産動向	国産材	△ 14.3	0.0	△ 7.1
	WW集成管柱	△ 10.0	△ 10.0	0.0
	RW集成平角	△ 10.0	0.0	△ 10.0
	米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—
出荷動向	国産材	△ 28.6	△ 7.1	0.0
	WW集成管柱	△ 10.0	△ 10.0	0.0
	RW集成平角	△ 12.5	0.0	△ 12.5
	米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
	WW集成平角	△ 50.0	0.0	0.0

国産材集成材の生産は5月の減少が6月の横ばいを経て7月にはやや減少に、WW集成管柱及びRW集成平角は5月の減少が7月に向け横ばいに、米マツ集成平角は横ばいで推移。

国産材集成材の出荷は5, 6月の減少が7月には横ばいに、WW集成管柱及び同平角は5月の減少が7月に向け横ばいに、RW集成平角は5月の減少が6月の横ばいを経て7月には減少に、米マツ集成平角は横ばいで推移。

(4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	26/5月	6月	7月
スギ集成管柱	△ 10.0	△ 10.0	0.0
ヒノキ集成柱	△ 10.0	△ 10.0	0.0
ヒノキ集成土台	△ 25.0	△ 12.5	0.0
カラマツ集成土台	0.0	0.0	0.0
WW集成管柱	△ 10.0	△ 10.0	0.0
RW集成平角	△ 12.5	0.0	0.0
米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
WW集成平角	0.0	0.0	0.0
米ヒバ土台角	△ 25.0	0.0	0.0
カラマツ集成平角	0.0	0.0	0.0

スギ管柱、ヒノキ柱及び同土台の価格は5, 6月の弱保合が7月には保合に、カラマツ土台、同平角、米マツ平角及びWW平角は横ばいで推移、WW管柱、RW平角及び米ヒバ土台は5月の弱保合が7月に向け保合に。

モニターからのコメント

(構造用集成材荷動き) ・製品荷動きは徐々に落ちついて来ており、納期遅れも解消してきている。生産キャパに余裕が出てきているが、依然、カラマツラミナが不足しており生産量は横ばいで推移。製品需要は徐々に減少しているものの需要に見合ったラミナ確保ができず生産量限られ、出荷も当面横ばい推移。

- ・国産材構造用集成材は荷動き悪く生産調整を行った。4, 5月は出荷減の予想。
- ・生産も落ち着き、製品在庫が増えてきそう。出荷は落ち着いてきた。国産材不足は変わっていない。
- ・駆け込み需要で一気に盛り上がったが反動で停滞、どのプレカット工場も在庫がMAXに近く、先の予定見ながらの発注だと全く慌てる必要なくメーカーはしんどい。次の需要が夏以降早く起こることを期待。

(構造用集成材出荷価格動向) ・スギ集成材は、ラミナ価格が高止まりしているが手当は順調でラミナ不足解消、製品需要は一時期に比べ減少し、競合製品も需給バランスから弱含みに転じており、値下がり回避は避けられず、採算悪化を危惧。カラマツは4月にラミナが大幅値上げとなったが、需給バランスから他樹種が弱含みに転じたため値上げできる環境になく、採算が合わない。当面ラミナ価格が下がる見込みは無く製品値上げも難しい状態。むしろ、現状価格をどこまで維持できるかが課題。

- ・今のところ価格変更の予定はない。
- ・ヒノキ集成柱、土台角は上がった価格を維持するのは難しく、この頃は下落。まだ元の価格までは戻っていないがもう一段下がる可能性。米ヒバ土台角は一部値戻しを呑んだところもあるが大半は現状維持と思われる。